

# 第7回アフリカ開発会議の 横浜開催に向けた要望書

平成28年11月  
横浜市



## 第7回アフリカ開発会議の横浜開催（外務省）

### 平成31年に日本で行われる「第7回アフリカ開発会議（TICADVⅦ）」の横浜開催

#### 【提案の背景・必要性】

- ・本市は、平成20年の第4回、25年の第5回アフリカ開発会議（TICAD）の開催地となりました。空港からのアクセスの良さや充実した会議・宿泊施設をはじめ、MICE都市としての横浜の強みを活かし、また、関係機関との緊密な連携のもと、安全かつ円滑な会議開催を支援し、会議成功に貢献しました。
- ・更に、本市は、会議開催を契機にアフリカ各国の大使館や市民・企業の皆様とともに「一校一国運動」やビジネスセミナーなどの取組を実施し、アフリカとの交流・協力・ビジネスを進め、日本で「アフリカに一番近い都市」になりました。
- ・今年8月にケニア・ナイロビで開催された第6回アフリカ開発会議の際には、アフリカ各国の皆様から本市に対し、過去2回の会議開催実績及びアフリカとの交流・協力の実績に高い評価をいただいたほか、インフラ整備や廃棄物処理分野の技術協力、女性の活躍支援など幅広い分野で、一層の期待が示されました。
- ・横浜の地で再びアフリカ開発会議が開催されることは、アフリカと日本との結びつきをさらに強固に発展していく上で、非常に大きな意義があります。

#### 【提案内容の説明】

- ・横浜がもつMICE都市としての高い会議開催支援能力、過去2回のアフリカ開発会議開催経験、また、アフリカとの固い絆を土台として、第7回会議の横浜開催を提案します。
- ・横浜は、市民、企業、日本アフリカ友好横浜市議員連盟をはじめとする関係機関と緊密に連携し、心温まるおもてなし・ホスピタリティで、第7回会議の成功に貢献します。

## ■グローバル MICE 都市横浜

- 会議施設、ホテル、レストラン、ショッピングモール、観光施設が全て徒歩圏内にコンパクトにまとまる。
- パシフィコ横浜は、会場別コンベンション参加者総数が、2002年より13年連続全国第1位（日本政府観光局「国際会議統計」より）。
- 2回のアフリカ開発会議のほか、APEC 首脳会議（2010年11月）など大型国際会議の開催経験。
- 国内最大となる2,400室のホテルの開業が予定（2019年）。



## ■過去2回のアフリカ開発会議

	第4回会議	第5回会議
日時	平成20年5月28日～30日	平成25年6月1日～3日
場所	パシフィコ横浜	パシフィコ横浜
参加者	アフリカ51か国の代表（元首・首脳級41名）、その他欧米アジア諸国、国際機関等、計3,000名以上	アフリカ51か国の代表（元首・首脳級39名）、その他欧米アジア諸国、国際機関等、計4,500名以上

## ■アフリカとの交流・協力・ビジネス事例－「アフリカに一番近い都市」横浜

- 「一校一国運動」（市内の小中学校がアフリカ各国の文化を学ぶ取組）
- アフリカンフェスティバルなど、市内でのアフリカイベント開催
- ベナン共和国コトヌー市と「交流協力共同発表」（若い世代の交流、港湾協力）
- アフリカ各国との水道、港湾、動物に関する技術協力（研修生受入・専門家派遣）
- 横浜企業のアフリカビジネス展開  
（アネスト岩田株、株サカタのタネ、日揮株、日産自動車株、株ヒロキ など）
- アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ「ABEイニシアティブ」  
（市内大学・市内企業による活用）
- 日・アフリカビジネスウーマン交流事業
- アフリカビジネスセミナー
- TICADVでの横浜アピール  
（「ジャパンフェア」への横浜市ブース及び横浜企業出展）



ベナンについて学ぶ  
市立笠間小学校



マラウィでの  
水道技術協力



日・アフリカビジネス  
ウーマン交流